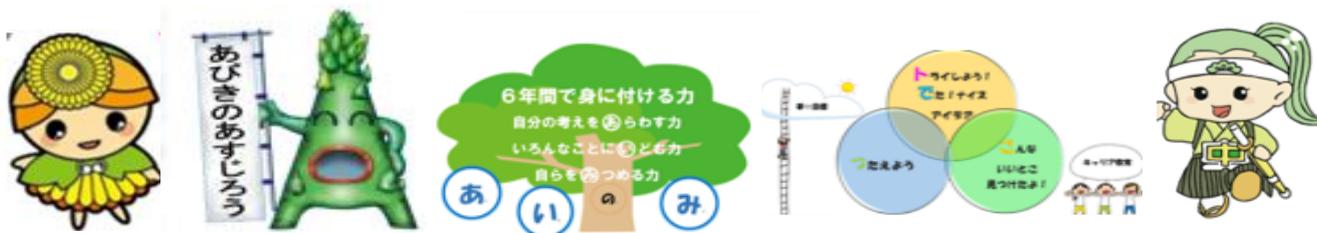


新市中央中学校区 キャリア教育実践の手引き（ダイジェスト版）



研究 テーマ	地域や地元事業所と連携した「自己を表現することができる 子どもを育成する」カリキュラム開発
-----------	--

資質・能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
中学 2・3年	・目標達成に向けて、より良い方法を考 えて取り組むことができる。 ・達成状況を振り返り、改善策を考 えることができる。	日々の学習活動を通して、自分の将来の 夢や目標、生き方を考えることができる。	自分の思いや考えを、相手や場に応じ て、分かりやすく説明することができる。
中学1年 高学年	活動を振り返り、改善策を考える。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法 を用いて説明できる。
中学年	困難なことにも挑戦し、最後までやりき る。	自分の得意な事や夢中になれる事を見つ ける。	自分の思いや考えをまとめて表現でき る。
低学年	自分のやりたいことに挑戦する。	自分の良さに気付く。	自分の思いを相手に伝えることができ る。

2021年（令和3年）4月より、「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」3年間の指定を受け、研究がスタートしました。「キャリア教育＝企業と関わる事?」「キャリア教育でどんな児童生徒を育成するの?」「どうやって成長をみとるの?」「校区で9年間やる上でどんな連携や取組をするの?」「企業と関わる際のポイントは?」「これまでの各校の取組をどう引き継ぎ、改善していくの?」など、各校でたくさん悩み、たくさん試行錯誤しました。

この「実践の手引き」では、そうした3年間の取組の中で、キャリア教育の視点から、「本校区で育てたい児童生徒像をどのように設定したか」「目指す児童生徒像へ向けてどんな取組を行ったか」「取組を通じてどのような成果と課題がみられ、どのような改善策が考えられるか」など、今後、児童生徒・学校・地域を「より良く」していくために、本校区で取り組んだことを紹介します。

R5年度新市中央中学校長 門田剛年

- STEP 1 児童生徒・校区に応じた資質・能力を設定しよう！（Plan）
- STEP 2 資質・能力を児童生徒・教職員・地域と共有しよう！（Do）
- STEP 3 資質・能力の向上を目指した取組を実践しよう！（Do）
- STEP 4 各種取組を評価し、改善につなげよう！（Check&Action）
- キャリア教育の取組を行ってみて

STEP 1 児童生徒・校区に応じた資質・能力を設定しよう！ (Plan)

新市中央中学校区のキャリア教育推進のスタート地点

【キャリア教育の定義】一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育
 【キャリア発達とは】社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程

(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申)(平成23年1月))

(1) 地域・校区、児童生徒の実態を「学校環境」「アンケート調査」「教職員の見立て」等から整理

学校環境から見た地域・校区の実態



【緑豊かな町】豊かな自然・菊作りやアスパラガス生産などの農業が盛ん
 【繊維産業の町】備後餅(藍染)発祥の地として昔から繊維関連の産業が盛ん
 【伝統を重んじる町】備後吉備津神社などの史跡や「祇園祭」などの地域をあげた大規模行事
 【地域のサポートが充実している町】地域の安全の見守りや学校の授業のゲストティーチャーとしての協力
 福山市ライオンズクラブ主催の出席講座、部活動後援会での地域サポート

アンケート調査から見た児童生徒の実態

- R元年度「基礎・基本」定着状況調査/全国学力・学習状況調査より
- ①「将来の夢や目標を持つ」「自分の住んでいる地域のことが好き」 **約85%**
 - ②「自分の夢や目標が叶うと思う」「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」 **70%を下回る**
 - ③「分かりやすく伝わるよう発表している」「自分の考えを積極的に伝えている」 **約60%**

教職員からみた児童生徒の実態

○考えを友達や先生に伝えられなくてトラブルになることがあるな。
 ○自分の考えを順序立てて表現することができてないな。
 ○言葉遣いや相手意識をもつことに課題があるな。



校区の実態を「アンケート」から考える際に・・・

研究のスタートは、自作アンケートではなく、他地域との比較がしやすい「全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査」や各市町村が実施する質問紙調査を用いると、効率よくデータの比較分析を進めることができ、全体の傾向が把握できます。

- ①自分の夢や目標の実現へ向けたプロセスを描けていない。地域のコミュニティや企業がどのような地域振興を行っているのかを理解した上で、自分の考えを持ち、地域社会に参画していこうとする意識が不十分
- ②様々な場面と相手を意識して自分の思いや考えを表現する力が弱い・経験が少ない・自信がない

実態から校区の児童生徒の課題を分析・整理

(2) 実態から「児童生徒が9年間を通して目指すべき姿」を明確にし、つけたい資質・能力を具体的に設定

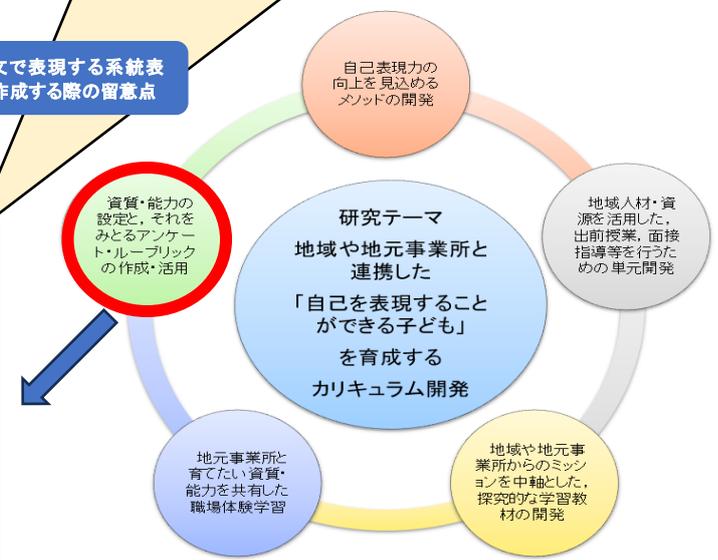
キャリア教育における研究テーマの設定
 キャリア教育のねらい、児童・生徒実態をもとにキャリア教育における研究テーマの検討・決定
 【研究テーマ】
地域や地元企業と連携した「自己を表現することができる子ども」を育成するカリキュラム開発

キャリア教育において身につけさせたい「資質・能力」の検討開始
 2021年度(令和3年度)
 新市中央中学校区の育成する資質能力「21世紀型「スキル&倫理観」
 「より深く考える力」「チャレンジ&チェンジする力」「つながる力」
 検討初期の「資質・能力」候補
 「課題解決力」「チャレンジ&チェンジする力」「地域貢献力」「自己理解・自己表現力」
 課題 ○資質・能力の項目が多い ○研究テーマの「目指す児童生徒像」とギャップ
 焦点化の必要性 ⇒ 本当につけたい「資質・能力」に精選する！(焦点化の2視点)
 研究テーマとの関連 「自己を表現する」というキーワードに着目
 広島県の15歳の生徒に身につけておきたい力との関連 「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」の育成

- 目指す姿は、「イメージを共有する」、「検証が可能」という点を考え、1文で表現できるまで焦点化します。
- 発達段階に合わせて、少しずつレベルアップした姿をイメージしていくことで、整理がしやすくなります。
- 小中で一緒に意見を出し合うことで、9年間のレベルアップのイメージが具体的になります。

1文で表現する系統表を作成する際の留意点

資質能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
中3 中2	目標達成に向けて、より良い方法を考える取り組みができる。 達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。	日々の学習活動を通して、自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。	自分の思いや考えを相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。
中1 高学年	活動を振り返り、改善策を考える。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明できる。
中学年	困難なことにも挑戦し、最後までやりきる。	自分の得意な事や夢中になれる事を見つける。	自分の思いや考えをまとめて表現できる。
低学年	自分のやりたいことに挑戦する。	自分の良さに気付く。	自分の思いを相手に伝えることができる。



STEP 2 資質・能力を児童生徒・教職員・地域と共有しよう！（Do）

資質・能力を設定したら、系統表の姿（ゴールの姿）を児童生徒・教職員・企業と共有していくことが不可欠です。新市中央中学校区では次の3つのポイントを意識しながら、共有化を図っています。

（1）「よく見るもの」「これまで使ってきたもの」に資質・能力を落とし込み、より身近で常に意識できるよう工夫

①資質・能力を位置付けた計画の作成（教員と共有）

【全体計画の作成】 「特別活動／行事」「各教科」「総合的な学習の時間」「生活科（低学年）」「特別の教科 道徳」の5項目で、資質・能力の向上へ向けた各校の取組を、学年ごとにまとめる

【年間計画の作成】 年間のカリキュラムマップをベースに作成する

【単元計画の作成】 キャリア教育の視点で、各教科で重点を置く単元や総合的な学習の時間を中心に作成する

②キャリア・ログ、キャリア・パスポートの活用（児童生徒と共有）例：新市中央中



4月初めの自分の様子の記入（4月）



キャリアカウンセリングでの活用（6月）



キャリア教育アンケートの分析での活用（9月）

指導計画作成の際には…

年間計画・単元計画では、統一様式は作りませんでした。統一様式となると作成・修正に時間がかかり、計画の作成自体に負担感を覚えます。記載する統一事項だけ決める「ゆるい統一」を行うことで、これまでの取組をベースに、無理なく行えます。

キャリア・ログ／キャリア・パスポートを活用すると…

アンケートによる数値の結果だけでは見ることができない児童生徒の成長やその時の思いを蓄積していくことができ、後に、その時に考えていたことをふり返ることができます。

（2）系統表の言葉を「より分かりやすく」伝える掲示や各企業等との連携シートを作成

①資質・能力のキャッチフレーズの作成（児童と共有） 各小学校で実施 例：新市小



なぜ小学校でキャッチフレーズ？

小学校低学年や中学年にも、資質・能力を共有するため、資質・能力をキャッチフレーズ化し、イラストとともにまとめました。視覚的にも言葉的にも分かりやすく、児童の声からも共有しやすいものになりました。

「あ」…表す力 → 「自己表現力」
「い」…挑む力 → 「チャレンジ&チェンジする力」
「み」…見つめる力 → 「自己理解力」

②企業との連携シートやワークシートに資質・能力を記載（企業、児童生徒と共有）

①出前授業を通じて、授業者（学校側）が児童生徒に身につけてほしい事・学んでほしい事

- ・たくさんの情報の中から、どうやって伝えたいものを選ぶのか。
 - ・伝えたいものを決めたら、今度はそれについての情報をどうやってどのくらい集めるのか。
 - ・集めた情報をどのように整理し、分類し、まとめるのか。
 - ・どんな書き方をすれば、相手にわかりやすく伝わるのか。
- といったことを教えてほしい。そして、この単元で培った力が、社会に出てどう役立つのか、社会とどうつながっているのかを話してもらいたい。

②本校区では、9年間で系統的なキャリア教育を実施するために、「チャレンジ&チェンジする力」「自己理解力」「自己表現力」という3つの資質・能力と、その具体的な姿を設定しています。講師の方には、本校区の資質・能力として設定している力（具体的な姿）が、現在、仕事をしていたり、日常生活を過ごしたりする中で、どのように発揮されているかを、5分程度で語っていただきたいと思います。内容は、3つの観点に万遍なく触れていただいても構いませんし、1つの観点に絞ってもらっても構いません。社会の最前線で働いている方の話を通して、生徒の職業観を高めていただきたいと思います。ご協力よろしくお願いいたします。

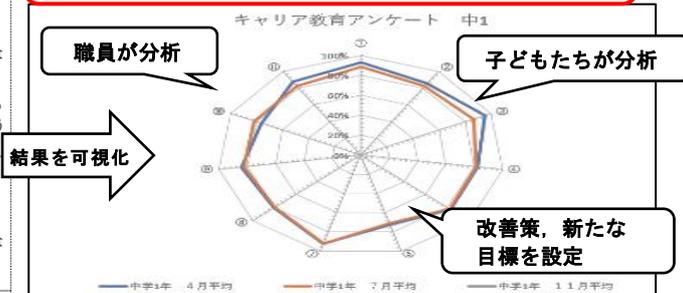
3観点	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
授業者 20名	・目標達成に向けて、より良い方法を考えて取り組むことができる。 ・達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。	・自分の学習活動を通して、自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。	・自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。

普段の生活と実社会とのつながり } を感じられる出前授業に
資質・能力と企業とのつながり }

（3）児童生徒の資質・能力の現状や伸びを数値や文字で確認し、改善方を検討

	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
中3 中2	①自分のやりたいことに挑戦(チャレンジ)していますか。 ②難しいことにも挑戦していますか。 ③挑戦したことを最後までやり切っていますか。 ④活動の中で目標(計画)を立てていますか。 ⑤目標(計画)の達成に向けて、よりよい方法を考えていますか。 ⑥自分の挑戦していることや活動の達成状況を振り返っていますか。 ⑦振り返りをもとに、改善策を考えていますか。	⑧自分の良いところを見つけていますか。 ⑨自分の得意なことや夢中になれることがありますか。 ⑩自分の将来の夢や目標を持っていますか。 ⑪日々の学習活動は、自分の将来の夢や目標・生き方を考えることにつながっていますか。	⑫自分の思いや考えを相手に伝えてえていますか。 ⑬自分の思いや考えをまとめて、相手に伝えてえていますか。 ⑭思いや考えをまとめる際に、いろいろな表現方法を使いながら伝えよう(説明しよう)としていますか。 ⑮自分の思いや考えを伝える際、相手や場に応じた分かりやすい説明になるよう工夫していますか。
中1 高学年	①自分のやりたいことに挑戦(チャレンジ)していますか。 ②難しいことにも挑戦していますか。 ③挑戦したことを最後までやり切っていますか。 ④自分の挑戦していることや活動を振り返っていますか。 ⑤振り返りをもとに改善策を考えていますか。	⑥自分の良いところを見つけていますか。 ⑦自分の得意なことや夢中になれることがありますか。 ⑧自分の将来の夢や目標を持っていますか。	⑨自分の思いや考えを相手に伝えてえていますか。 ⑩自分の思いや考えをまとめて、相手に伝えてえていますか。 ⑪思いや考えをまとめる際に、いろいろな表現方法を使いながら伝えよう(説明しよう)としていますか。
中学年	①自分のやりたいことに挑戦(チャレンジ)していますか。 ②難しいことにも挑戦していますか。 ③挑戦したことを最後までやり切っていますか。	④自分の良いところを見つけていますか。 ⑤自分の得意なことや夢中になれることがありますか。	⑥自分の思いや考えを相手に伝えてえていますか。 ⑦自分の思いや考えをまとめて、相手に伝えてえていますか。
低学年	①自分のやりたいことに挑戦(チャレンジ)していますか。	②自分の良いところを見つけていますか。	③自分の思いや考えを相手に伝えてえていますか。

資質・能力に基づくキャリア教育アンケートの作成と活用（教員、児童生徒と共有）例：新市中央中



アンケートを作成する際には…

系統表の言葉に沿ってアンケート項目を作成することで、アンケートの分析、改善策の検討を行いやすくなりました。

STEP 4 各種取組を評価し、改善につなげよう！（Check & Action）

各種取組を行った後は、児童生徒の変容や教職員の手応えを受けて、児童生徒の資質・能力の向上のために、取組をどう改善していくかを検討していきます。これを行うことで、資質・能力の向上へ向けた取組が持続し、効果を上げます。新市中央中学校区では、次の3つの方法で、各種取組の評価、分析を行い、改善につなげています。

（1）各種アンケートを用いた評価と分析

キャリア教育アンケートを活用した分析

（3年生）8月1日 夏季キャリア教育研修（7月アンケート結果の考察）
 ①5月と比べて、7月のアンケート結果や目の前の具体的な生徒の姿で成果や課題は何か？（10分）
 ②「出た成果や課題の背景にある出来事・要因は何か？」（10分）
 *適宜、表の列は増やしてください。

①成果	②その背景にある出来事・要因
自分の活動に対して達成状況を振り返り	・キャリアパスポートの活用が昨年よりも学期間で多く
改善策を考える力が大幅にUPしている	できたこと ・総合ではルーブリックの活用や相互評価の機会を増やしたことで現状把握しやすくなったため
①課題	②その背景にある出来事・要因
最後までやり切ることができない	・自身の力を過大評価している部分があり、目標設定が現状とそぐわない
	・やるべきことを整理し・優先順位をつけて計画的に進める力が弱い

③②を踏まえて、各学年でどのようなことに2学期取り組んでいくか？（10分）

- ・引き続き、各行事ごとにキャリア・パスポートを活用し、相互評価などを取り入れて、自己改善策をアップさせていく。また、中心となる生徒だけでなく、どの生徒も頑張りが承認されたと思えるような評価の在り方を考え、実行していく。
- ・自己の進路達成に向けて、セミナーテスト・定期テスト・自己表現の取組を計画させる中で、「現実自己」からスモールステップを考えさせ、「理想自己」に繋げていく。

教職員アンケートを活用した分析

取組に対する教職員のアンケート結果や、取組内容の良かったところや改善点を出してもらった中で、教職員の認識や考えを確認し、研修や今後の取組に反映させました。
 （例：資質・能力の共有化についての意識アンケート）

小学校教職員へのアンケート

質問項目	してていつ、ジチいけ自すやるた分るレいのカンカ該ージを当に&理学つち解年いエ	解年いー本してで自校てつ、己区いけ自理でるた分現育いの力て力該ーたを当にい理学つ	解年いー本してで自校てつ、己区いけ自理でるた分現育いの力て力該ーたを当にい理学つ	う向は子児。け資フ童て質し生有能！徒効力ズのだのー「向のキ思想上使ヤへ用ツ
R4年度肯定	98%	100%	100%	98%
R5年度肯定	100%	95%	98%	93%

教職員の声から見る成果・変容【Q:「キャッチフレーズ」の活用について、良かったと思えることは？】

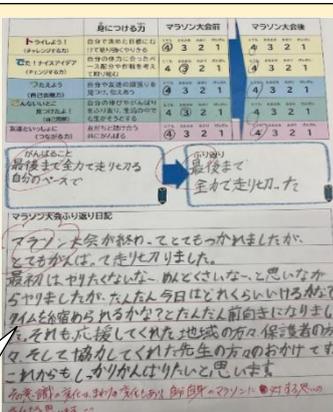
子ども達の振り返りも、以前より内容が詳しくなったり、具体的な場面を想像しながら取組を振り返ったりしている様子がうかがえる。また、ワークシートで振り返る際には、キャッチフレーズと共に、その時に行った活動で言うとかような場面のこと！等と、具体例を示すようにしている。そうすると、子ども達は自分で振り返って書いている。

（2）児童生徒の記録や児童生徒の具体的な姿（声）を用いた評価と分析

行事の記録での評価と分析（例：戸手小）

【リフレクションシートの効果について】
 全校で統一したりリフレクションシートを作成し、マラソン大会で伸ばしたい力を共有しました。当日までの練習だけでなく、丁寧にリフレクションすることで児童が自分と向き合う機会となりました。
 目標を立て、取り組むことを通して、何のためにマラソンをしているのか、何の力を伸ばすのか、主体的に考え、取り組むことができた児童が多く見られました。

学活の時間を要として、自分の変容に気付かせるリフレクションの時間を充実させ、各教科や行事での学びが結びつく機会を作ります。



児童の変容（具体の姿）からの評価と分析（例：網引小）

【キャッチフレーズの効果について】
 キャッチフレーズは常に教室に掲示しており、日頃の生活や授業、行事の度に子ども達と確認しながら取り組んでいます。例えば、体育大会では、難しいダンスをやり切った後、「チャレンジして最初よりも素早く動けるようになったね。」と子ども達がお互いに声を掛け合う姿がありました。このように、キャッチフレーズがあることで、子ども達も教師も「なりたい自分」を明確にもって活動に臨むことができています。

単元計画の中に、児童・生徒の様子やコメントを残す
 キャリア教育に重点を置いた単元（授業）では、新しい学年（教科）の担当者にも引き継げるように、単元計画を記録に残しています。また、実施後に成果と課題、改善事項（評価）の具体と一緒に記載しておくことで、引き継ぐだけでなく、より良い実践となるようにしています。

（3）ルーブリックを用いた評価と分析

「自己表現力」の到達度を見取るルーブリックの作成（例：新市中央中）

社会科3年 公民「私たちと現代社会」の単元で設定したルーブリック

継続ルーブリック【記録課題の進捗にAの達成を記録しながら自己表現【自分の考えを伝える作業】に取り組もう！】	A	B	C	D
自分の思いや考えを、資料から読み取った情報や生活体験を複数組み合わせた後、他者の視角・考え方を取り入れたらうことで、説明できている	自分の思いや考えを、資料から読み取った情報や生活体験を複数組み合わせた上で、説明できている。	自分の思いや考えを、資料から読み取った情報や生活体験を複数組み合わせた上で、説明できている。	自分の思いや考えを、資料から読み取った情報や生活体験を複数組み合わせた上で、説明できている。	自分の思いや考えを、資料から読み取った情報や生活体験を複数組み合わせた上で、説明できている。

授業中の討議
 どうやったら相手が納得するだろう？

根拠をしっかりとらせるために、賛成・反対を裏付けるものは何？

高校の先生・生徒との「討議テーマ」の交流

研究討議のコメントより
 【成果】ルーブリックについて説明したことで、何をすればよいか明確化された。
 【課題】ルーブリックのA評価に、「他者の意見」と入っているため、他者の意見を取り入れることを促すワークシートや机間巡視中の指導があるのととても良かったと思う。

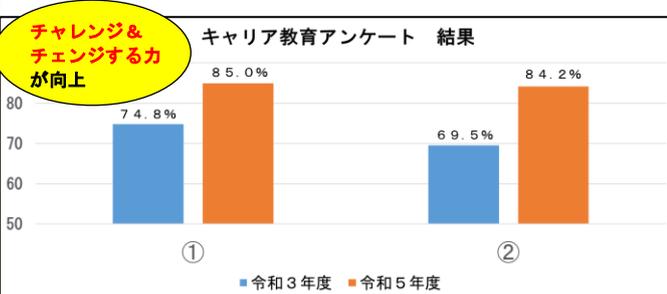
- (1)～(3)を基に、年度末・学期末・重点単元（行事）の終了後を中心に、次の内容を推進委員会・校区の研修会、学年間、教科間で検討し次年度の取組の改善につなげる。
- ①各種計画の再構成（特に、年間計画と単元計画）
 - ②授業内容・独自の取組の再構成
 - ③出前授業・企業連携先の精選と活動内容の検討
 - ④校区全体の取組の検討
 - ⑤キャリア教育推進に関わる疑問点や改善点の聞き取り（教職員から）

キャリア教育の取組を行ってみて

(1) 児童生徒のアンケート結果から見える成果と課題 * 小学校と中学校の実践が混ざるR5年度中2を対象に

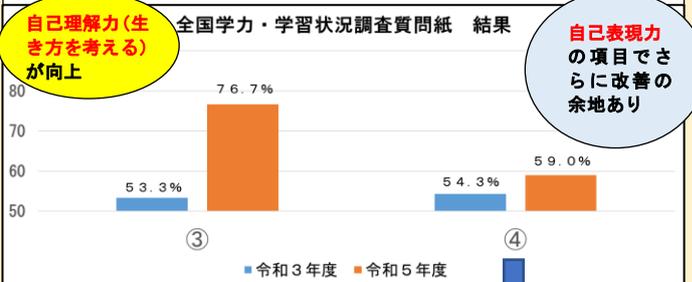
キャリア教育アンケート

- ①自分のやりたいことに挑戦(チャレンジ)していますか。
- ②振り返りをもとに改善策を考えていますか。



全国学力・学習状況調査質問紙調査

- ③地域や社会をよくするために、何をすべきか考えることがありますか。
- ④自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していますか。



【成果(○)と課題(●)】

- キャリア教育アンケートの結果やキャリアログ・キャリアパスポートを活用して、学習活動の過程をふり振り返り改善策を考える取組が、もう一度やってみようという意欲へとつながり、「チャレンジ&チェンジする力」に対する肯定的評価が高まったと考えられる。
- 地域や企業と連携した出前授業など、実社会とつながる実践を積み重ねてきたことで、「自己理解力」の目指す姿である、社会参画しようとする意識が高まったと考えられる。
- 自己表現を最終課題に据えた各種取組・行事を仕組むことにより、「自己表現力」に対する肯定的評価が高まってきたと考えられる。(R5キャリア教育アンケートの比較より)
- 「自己表現力」については、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していますか」の項目が、大きくは伸びていなかった。表現するまでの過程で「伝えたい」という意欲を高め、自分で伝え方を工夫したいという思いが児童生徒から湧き上がってくるような活動にしていく必要がある。

R5年キャリア教育アンケートの比較(校区全体)	自己表現力		
	4月	11月	増減
低学年	77.3%	82.5%	5.2%
中学年	79.9%	81.0%	1.1%
高学年	79.4%	80.7%	1.3%
中学生	80.7%	83.3%	2.6%
校区全体	79.3%	81.9%	2.6%

(2) 教職員のアンケート結果・インタビューからみる成果と課題

質問項目	割合
キャリア教育の取組を通じて、児童生徒の「チャレンジ&チェンジする力」は向上してきていると思う。	92%
キャリア教育の取組を通じて、児童生徒の「自己理解力」は向上してきていると思う。	89%
キャリア教育の取組を通じて、児童生徒の「自己表現力」は向上してきていると思う。	92%
キャリア教育の取組の中で、自分の授業力、学校や学年の実践が改善されてきていると思う。	91%
キャリア教育の取組、出前授業の実践の中で児童生徒は、「教科の学習と実社会とのつながり」を意識した言動や振り返りなどが見られるようになってきている。	86%
キャリア教育の取組の中で負担感を感じる場面が多い。	60%

【成果(○)と課題(●)】

- 各活動を通じて資質・能力の高まりを実感しており、これまでの取組や授業の内容等を、企業・地域の力をうまく借りながら改善しようとしている。
- 実社会とつながる実践を行うためには、企業との連携、単元計画作成などに時間を要する。持続可能な取組にしていく仕組みづくりを整えていくことが今後の課題である。

【インタビューより】

- 単発で出前授業を行うのではなく、**カリキュラムの中にどう位置付けるのか**しっかり考えるようになった。
- 社会で働く大人と接することで、**社会参画に向けた意識が出てくるようになった。**
- 教員と地域のつながりがとても深まった。各学年の取組を地域に伝えながら、**地域と共に生徒を育てることができている**と実感している。

(3) これからキャリア教育を始める学校・教職員の皆さんへアドバイス

【小学校職員】出前授業の際にインタビューをする時間を設け、仕事の喜びや大変さ、仕事をするきっかけなどを聞くことで、様々な職業観に触れることができ、子ども達のキャリア形成につながると思います。



【中学校職員】自己理解のためのエンカウンターを取り入れてみたり、出前授業で実際に社会の中で働く人の話を聞く機会を設けたりするのが資質・能力の育成に効果的でした。

【中学校職員】自校に合ったキャリア・パスポートの作成。まずはここから始めていくと目指していく方向が定めやすいと思います。私は、2年目ぐらいにようやくキャリア教育の趣旨が理解でき、ルールに乗れた気がします。生徒も同じで何のためにこの取組をやっているのかが分ると良いと思います。

【小学校職員】楽しいけれど、大変。大変だけれど、楽しいです。難しく考えず、まずは今している活動につながりを持たせ、その価値を再確認する中で、「他にも良いものがあるかな？」と追加するようになると、無理なく進められると思います。先生自身が「やらされている」という感覚でなく、楽しんで取り組むことが第一だと思います。